

平成29年度 学校評価書

学校法人 服織学園 わらべ幼稚園長 志田 洋子
 わらべ幼稚園関係者評価委員会委員長 八木 厚子

1. 本年度の重点目標 ～仲間の中で成長し仲間を大切にする子～
 - * 仲間の中で成長し仲間を大切に保育(集団の成長と個々の成長)を * わらべ幼稚園の保育内容を充実していく
 - * 保護者の支援・育児についての支援をしていく * 一人一人の子どもの把握・教材研究をしていく
2. 自己評価結果に対する学校関係者評価 * 自己評価は、A(十分に成果があった) B(成果があった) C(成果がなかった)の数値で表す

評価項目	具体的取り組み	自己評価	園としての取り組み・改善策	学校関係者の意見	学校関係者評価
1	保育の計画性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児の保育に満3歳児が5人入園し、混合保育をすることになり、難しいところや3歳が我慢するところが出てきたが子どもたちが楽しく取り組めるように計画した ・生活面や基本的なことを丁寧に個々に合わせるよう目標を持った ・子どもの様子や実態をよく知る事からはじめ、教師間で話し合いを重ね保育を考えていった・一人ひとりが自信が持てるよう目標を考えた ・個々の成長と集団としての課題を常に考えて保育を考えた ・子どもの話やイメージしている事を丁寧に聞き叶えてやろうと教師間で相談しながら保育を組み立て、反省や課題を常に考えた ・園内・園外で様々な体験ができるよう計画した。 ・子どもの活動を見通して準備を進めた 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に注目をした視点と集団の中での関わりに注目した視点から子どもの実態が捉えられ、保育計画と実践を経て重点課題につながる成果や課題が得られているのではないかと受けとめました ・子どものイメージを受けとめた援助や遊びの環境考察がなされていて子どもたちの満足感や達成感につながっていると思われます ・その中で発達課題も重視されていたのではないのでしょうか ・園内外の環境を生かした体験ができるのはわらべの保育のよさだと思います ・子どもに寄り添った計画的な保育で実践している ・教育の目標を達成するための取り組みをしていると思う ・一人ひとりをよく観察してその子に合った対応をしていると思う ・たいよう組はお泊り保育、運動会、大きくなる会などを通し伝達・意欲・達成感・表現・仲間意識など成長が見られ1年生に向けての課題を見通して保育してくれた ・満3歳との混合保育に関しての計画性が十分なされたか疑問がある 	A
2	保育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな遊びを見つけて自分から遊びを楽しめるようにしたり、子どもが興味を持ったことを一緒にやりクラス全体で楽しめるようにした ・子どもと一緒に遊ぶことで遊び方を伝え、友だち同士で遊べるよう見守った ・畑やグラウンドで虫や草花に目を向けたり散歩の中でも気づいたり興味を持つように働きかけた 散歩で歩く力、歩き方など基本を重視した ・その子に合った言葉がけをし一人ひとりをよく知るよう心がけた ・自分で考えたり、作ったりする経験をさせようとする自由な発想、やってみたい気持ちを大切にし環境を整えたり、援助した ・教師が遊びの中に入り少しずつ子どもたちだけで遊べるよう援助をした ・子どもたちに自信を持たせる為、たくさん褒めたり、教師も一緒に喜んで共感しながら保育をした ・自然の中で遊ぶ体験は減っているが、どんぐりや木々集めや調べ、川遊び・山登りなど体験させた。教師自身も子どもと一緒に楽しんだ ・子どもたちの思いや感じたことをクラスの中で発表し一人ひとりが自信を持てるようにした。また教師は褒める時は子どもを抱きしめ言葉だけでなくスキンシップをとった ・子どもの持っている力や可能性を引き出すように目標を立てながら見守ったり援助した ・生活習慣については個々に声をかけ必要場合は保護者と連絡を取り合った ・川や山に行ったり草花遊び・草すべり木の実拾いなど自然を体験させた ・部屋にコーナーを作ったり手作りおもちゃを用意したり遊びの場を広げた ・満3歳児と3歳児の合同保育に教師として取り組みが大変なこともあった ・気になる子の保育でその子が興味を持っていることその子の言葉や動きを把握し集団の中ですこしづつできるように援助した 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の重点課題を見据えた保育実践がされ、子どもたちの姿から多くの成果が受けとめられたと事と思います。仲間とのかかわりについて個を追った記録も整理すると、集団の中で成長する個が捉えられて新しい発見があるかと思えます ・新たに混合保育が行われましたが、次年度は子ども園になりこどもの年齢も広がります。今まで培った保育に新たな発見を楽しみながら保育を心がけて欲しいと思います ・園外の自然を取り入れた遊びの体験と園舎改築という体験が今年度ならではの子どもたちの遊びや生活になったことでしょうか ・遊びの中で知育・体育など一人ひとりに合わせて取り組んでいると思う ・自然との触れ合いの保育はわらべの精神である。交通事情など年々厳しさを増しているが自然が子どもの原風景となる保育に取り組もうとしている ・その子に合った働きかけ、良さを認めて褒めたりすることで子どもの自信につながる。良い指導だと思う ・好きな遊び、興味があることを膨らめてクラス全体で取り組み自分らしさの発揮の場を与えてくれた ・自然との触れ合いは環境の変化や園舎建替に伴い少なかったが厳しさの中、精一杯努力してくれた ・建て替え工事の影響もあり行事が縮小されたのが残念であった ・先生たちが一人ひとりを把握して全体的に伸び伸びと様々な経験・活動ができていた ・遊び場所が制限されている中でも子どもたちはストレスを感じることもなく園内外での過ごし方を考えてくれた 	A

	評価項目	具体的取り組み	自己評価	園としての取り組み・改善策	学校関係者の意見	学校関係者評価
3	保護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの園での様子を話し、家庭と園との連絡をしっかりとっているか 育児の悩みを聞いたり保育についてなど相談にのっているか 園便り・クラス便りを出したり、行事など保護者や地域、未就園児保護者に知らせているか 保育の実態を知らせるようにしているか 未就園児の遊びの会など開き、園の保育内容を伝えているか 	B	<ul style="list-style-type: none"> 連絡ノートで保護者の不安を受けとめたり子どもの様子を丁寧に伝えるようにした。子どもと共に保護者の様子も気にかけてきた 子どもの様子を気にしたり、相談したい気持ちがある保護者に面接をした 子育ての不安や悩みを抱えている保護者へのケアをしていく必要がある 園の取り組みやリュックの日の捉え方を伝えてきたが伝わりにくい面もあった 保護者からの相談には話をよく聞くようにした クラス便りではその週の出来事や子どもの会話、教師の気持ちなどをわかりやすく伝えた。 バス通園の子が増え、保護者と直接話をする機会が減ってきた為会う機会がある時は子どものことを伝えていった お便りを詳しく書いたり子どもとの会話が家庭でも続くように家族を巻き込んで保育に関わってもらうよう活動してきた お便りや言葉がけでも保護者との感じ方のずれがあるので発信の仕方難しい 	<ul style="list-style-type: none"> 先生方が園での子どもの様子を伝え、保護者からの相談にも丁寧に対応したことで、保護者から信頼されていることが伝わって来ます 保育方針を子どもの姿を通して伝える工夫(お便り等)がされていて、保護者にわらべの保育が受け入れられているのがわかります 未就園児の保護者も含めて幼稚園が子育てで頼れる場であってほしいと願っています 連絡ノート・クラス便りなど保護者との連携を密にしていると思う 園の様子のお手紙は地域にも発信して言って欲しい クラス便りや園便りから子どもたちの様子が良く伝わってきた 行事や活動に対する保護者の要望の回答が紙面上のみになり園側の意向が十分保護者に伝わらなかった 子どもたちの様子を丁寧に連絡帳で伝えてくれた お便りなど誤字脱字がないよう工夫して欲しい 行事に対する保護者の不満など聞く機会をもっと作って欲しい 	B
4	研修	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修を充実しているか 発達段階を考慮した保育について研修しているか 気になる子の対応について話し合いや指導計画が立てられているか 	B	<ul style="list-style-type: none"> 県外の研修に参加し自分の保育の中でも研修したことを生かすことができた 研修することで学んだり再確認ができるので今後も色々な研修に参加したい 園内研修のやり方など工夫していく必要がある 教師間で話を深めたり、参考資料を読んで研修した 気になる子の対応は園長や教師で密に話し合いや研修をし保護者とも面接や話し合いを重ねた 支援の必要な子の対応ができる園内環境を今後も整えていきたい 30年度よりこども園に移行するため、保育内容、行事のあり方など研修をした 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も引き続き日々の保育の課題解決と共に教育目標や重点課題に視点を置いた園内研修をより深められるよう期待しています 子ども園に移行するにあたり、他園の実践を参考にしつつもわらべの保育を構想して欲しいと思います 研修、勉強会、参考資料の活用をし保育の向上になっている 先生方の研修の成果が保護者に伝わるよう工夫していくと良いkと思う 	A

3.学校関係者の総合評価

- * 本年度の評価や取り組み状況から、保育計画や実践に園全体で取り組んだこと、子どもに寄り添った保育が充実していたことが伝わって来ました。保育者が手ごたえを感じられた成果が得られたことも大きな収穫だったのではないのでしょうか。次年度に生かして欲しいと願っています
- * 子ども園になって教職員が増えますが、お互いに信頼し共通理解に努めて、わらべらしい保育をするよう期待しています
- * 今後子ども園になると基本的な保育は変わらないと思うが、乳児の保育も入るので変化することもある。地域との連携は他の子ども園とのかかわりも大切になってくる
- * 先生たちが本当に子どものことを良く見てくれていると思う
- * 来年度はわらべらしい取り組みができることを期待したい
- * 行事などもう少し保護者を巻き込んで先生たちの負担を減らしていくと良いと思う

4 学校関係者評価を受けて今後の考え

課題	具体的な取り組み
保育の充実 保護者との対応	<ul style="list-style-type: none"> * 30年度幼保連携型認定子ども園に移行するため、乳児保育が加わってくる。個々の発達を見取り、考慮し、一人ひとりに寄り添い、きめ細かい保育を今後もしていく * 子ども園の保育について教職員で研修し、わらべの保育について内容を深めていく * 新しい先生が増えるので協力しあい子ども園の保育を充実させる * 園理解につながる情報を発信していき、保護者の方々の意見を聞いたり、地域、園、保護者が協力して わらべの保育を実践していく * 色々な思いを持っている保護者の方と話し合い、保育について理解をしてもらったり意見も聞いていくことも大切である * 保護者と教師がもっと話し合える場を作っていく